

当別文芸の会だよりNO.103

R1・10/28(連絡先・河地良一 TEL090-5076-2550)

「文芸シンポジウム」を開催

日本列島を直撃した台風19号の影響を受けて、北海道も雨模様となった10月19日(土)、13:30より田西会館で開催した「文芸シンポジウム」には、雨の中、会員12名のみなさんが参加されました。

今年は、「当別文芸の会」が発足して10年目になる年ですので、今回はテーマを「文芸の会の活動を振り返って」として、会員によるシンポジウムを開催することになり、司会進行は幹事(研修担当)の東前寛治さんをお願いしました。

まず、資料提供として、代表・河地から「活動10年のあゆみ」の報告をしました。この4月で「当別文芸の会だより」も100号になり、指定読書も60冊を超えたのにはびっくりでした。

また、定例の読書会のほかに、バスでの「文学散歩」、「公開・文芸セミナー」、文芸誌「当別文芸」(今年で第9号)の発刊など、会員以外の町民(当別にゆかりのある人)にも呼びかけての活動もおこなってきました。

続いて、話題提供として、大澤勉さん、竹原一孝さん、新名正勝さん、松本弘さんほか会員のみなさんからも、自分との関わりで感想、意見を述べていただきました。

これまで自分の好きな本だけ読んでいたが、それ以外の本も手にするようになったとか、一人学習と仲間学習の併用とか、文芸誌「当別文芸」も時代が経つほど町民のくらしが歴史として残っていく、また、文芸の裾野を広げる活動を今後も大事にするなど、みなさんからの活発な意見で盛り上がり、予定の時間を30分も延長して、盛会のうちにシンポジウムを終えることができました。

これからも、会員のみなさんの思いを交流する機会を考えていきたいですね。みなさんの貴重なご意見をお待ちしています。

11月の読書会のご案内

次回の読書会は11月16日(土)13:30より白樺コミセンです。

指定読書本は、浅田次郎の「帰郷」(集英社文庫・638円)で、太平洋戦争に巻き込まれた人たちの生きざま6編が載っています。戦争は人びとの人生をどのように変えてしまったのか。第43回大仏次郎賞の受賞作品です。お手元にお届けいたします。併せて、「当別文芸」(第9号)の感想交流もおこないます。